

地理総合/  
地図帳活用 コトバジメ  
「地理総合」での地図帳の活用法

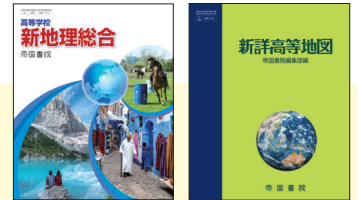


第1回 『高等学校 新地理総合』第1部 第2章 2節「グローバル化する世界」での地図帳活用

## 主題図から「グローバル化する世界」をとらえる

田園調布学園中等部・高等部 山田 智之 (やまだ・ともゆき)

『高等学校 新地理総合』  
第1部 第2章 2節  
『新詳高等地図』



### ■「グローバル化する世界」を理解する

インターネットをはじめとする情報通信技術（ICT）の急速な発達と、さまざまな交通機関の充実により、世界のグローバル化が近年ますます進んでいる。国境を越える経済活動が盛んになり、2016年現在の世界の貿易額は30兆ドルを超えている（『高等学校 新地理総合』（以下、教科書）p.35）。これは冷戦終了後の1990年代初めの約4倍である。また、国際観光客数を見ても、1990年の4億3,500万人から2019年には14億6,600万人と、約3.4倍に増加しており、この30年間の変化の大きさが分かる（『地理統計 Plus』p.108）。グローバル化は世界の各地域に経済成長をもたらし、人々の生活水準の向上につながっている。その一方、2019年末より始まった新型コロナウイルスの流行や2022年からのウクライナ情勢のように、結び付きが途切れるとマイナスの影響が現れることも示された。この項目は公民科の「政治・経済」で扱う印象が強いが、経済活動の実態や変化を空間的に把握できる地図帳の主題図の活用は有効といえる。

### ■主題図から見る世界のグローバル化

『新詳高等地図』p.4に掲載された主題図「①世界の航空路と日本からの距離」（図1）では、北アメリカとヨーロッパ、東アジアと東南アジアで週100便以上の路線が多く見られる。考えられる理由として、広い国内の移動に航空機が便利であること、ニューヨーク、ロンドン、シンハイ、シンガポールなど国際経済の中心には常に人が集まりやすいことが挙げられる。

別の展開としては、時代による変化を読み取る方法もある。教科書p.36「1 日本の航空会社の航空路線の変化」で1970年と2019年の航空路線を比べてみると、1970年時点の路線は各地を経由して目的地へ運行していたが、2019年では直行便が増えている。読み取り作業では、図に現れた小さな変化を探しながら、理解を深めるとよい。

### ■主題図活用時の留意点

『新詳高等地図』p.192「①国際旅行者受入数と観光収入」（図2）、「②国際旅行の訪問先」（図3）のように、関連のある内容の主題図では、多様な授業展開が可能である。図2からは、その国を訪ねる人数のみでなく、観光への依存度が高い国を読み取ることもできる。地中海沿岸の国々やアメリカ合衆国、中国に旅行者が多いことが目立つが、日本も数の上では少ないわけではない。観光庁が目指す2030年の訪日外国人旅行者6,000万人の話題を紹介することもできる。図3と図2の「① ⑥訪日外国人の国・地域別割合」を組み合わせると、日本は北アメリカやヨーロッパよりも東アジアや東南アジア方面との往来が多いことから、観光に地域性があることを読み取れる。図1で、東京からヨーロッパや北アメリカの距離と東アジアや東南アジアの距離を比べ、考えられる理由を挙げさせるとよい。

主題図を学習評価に生かす場合、①その図から読み取れることを挙げる（知識・技能）、②読み取った内容から考えられることを挙げる（思考・判断・表現）のように進めれば、授業者・学習者ともに、学習事項の目標を明確にして臨むことができる。



多くの航空路線で結ばれる成田国際空港

